

(家庭数配布)



最近、感心したこと

私は毎朝、何人かの先生と一緒に校門に立ち、子どもたちにあいさつをしています。これに子どもたちも返してくれています。

その中に、とても感心な子がいます。私も含め、その場にいる先生1人ひとりの方を向き、とても元気な声で「おはようございます!」とあいさつをしているのです。これって、絶対にやらなければいけないことではありません。もし全員にあいさつをしていなくても、叱られたりすることでもありません。でも、その子なりの思いを持ってやっていることなのでしょう。

このことから1つ思い出したことがあります。今、大人気の大谷翔平選手のことです。大谷選手はピッチャーとしてマウンドに上がる時に、グラウンドにいる審判全員、1人ひとりに向かってあいさつをしているのです。これも絶対にやらなければならないことではありません。あいさつをしなかったからと言って、判定が不利になるわけでもないでしょう。でも、このあたりが大谷選手が多くの人から好かれるところなのではないでしょうか。

私たちは、自分1人だけの力で生きているわけではありません。助け合いの関係です。そのための円滑なコミュニケーションの入り口として、まずはあいさつを心がけていきたいものです。繰り返しですが、先生たち1人ひとりにあいさつをしている子には、とても感心したことを伝えたいですし、これからそのような子どもが、緑地小学校でどんどん増えてくれることを望んでいます。

「1人を大切に」のもうひとつの意味



昨年度より、本校教職員向けの教育目標の中に「1人を大切に」の言葉を入れています。これについて、私が考えていることをお伝えします。

「1人を大切に」とは、本来の「目の前にいる1人の子どもを大切に」の他、もうひとつの意味を私が考えています。例えばクラスに30人の子どもがいたとします。どのクラスでもそうですが、簡単な言葉だけで十分に

理解ができる子と、なかなかそのようにはいかない子がいます。当然のことながら、後の方の子には多くの手をかけることとなります。この時、先生がどのように対応をしているか、実は他の子がよく見ているのです。そして、「先生はそこまでやるのか。」と感ずることがあれば、直接かかわってもらっているわけでもなく、他の子どもその先生に対して信頼を寄せるようになります。(逆の場合は…、もうお分かりですね。)

先ほども取り上げた大谷選手ですが、大谷選手は野球の結果だけではなく、日頃の振る舞いなども、度々メディアで取り上げられています。その振る舞いを見て、ファンになる人も多いようです。ファンであっても、直接大谷選手とかかわったことがある人はほとんどいないはず。でも、様々なメディアを通じて大谷選手の人柄を知ることにより、ファンになってしまうのだらうと思います。

同じことが、学校の先生と子どもとの関係の中でもあると思っています。目の前にいる1人の子どもをとことん大切にする、その姿勢を見て多くの子どもたちが先生に対して信頼を寄せるようになる、これが私の考える「1人を大切に」のもうひとつの意味です。そもそもですが、1人を大切にできない人が大勢を大切にできるわけがありません。

これからも、本校職員一同(私も含めて)、本来の意味ともうひとつの意味、両方で「1人を大切に」を心がけ、子どもたちに接していきたいと思っています。

修学旅行がありました!!

今月21~22日、6年生が京都に修学旅行に行ってきました。修学旅行には教頭先生が同行することになっていましたが、21日は日曜日であったため、私も1日だけ仲間に入れてもらいました。

今回の修学旅行で私が素晴らしいなと思ったのは、6年生の態度や行動です。1日目の昼食は清水寺近くのお店でいただきましたが、お店を出る時に、多くの子が従業員の方に「ごちそう様でした。おいしかったです。」と声をかけていました。また、宿舎に着いてからも、玄関でお出迎えをしてくれていた女将さんに「よろしくお祈りします!」ととても気持ちの良い挨拶ができていました。このことも絶対にやらなければならないことではないのかも知れません。しかし、このような言葉を自ら積極的にかけていくことが、人と人の円滑なコミュニケーションの第一歩です。これからも心がけてほしいと思います。

修学旅行では、多くの思い出を作れたことと思います。6年生は3月には卒業を迎えます。その時に「やり切った!」と思えるよう、残りの小学校生活をしっかり送ってほしいと思います。期待しています。

修学旅行 楽しかったよ!



窓から顔を出すのはだめだよ。
(バスの中から)